

令和7年度 学校自己評価 専門課程(2024.9～2025.8)結果

評価項目の達成及び取組状況

【目標達成率】 A：80%～ B：60%～79% C：40%～59% D：40%未満

- ：高等課程と質問内容・回答が重複する為、高等課程から流用する項目

(1) 教育理念・目標 (学校全体)

評価項目	達成値
①理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	A
②学校における職業教育の特色は定められているか	A
③理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生・保護者等に周知されているか	A
④教育目標、育成人材像は、卒業後の社会のニーズに向けて方向づけられているか	A

- ① できていること、維持すべきこと
- ・愛情教育の下、きめ細やかな教育ができている。
  - ・基礎教育を重視し、社会で必要なコミュニケーションスキルや生きる力の向上を図っている。
  - ・専門資格・検定の取得を段階的に支援し、成功体験の積み重ねを通じて学生の自己肯定感を醸成している。
  - ・高等課程からの教育的継続性を活かし、一貫した教育方針のもとで揺るぎない学習基盤を提供できている。
  - ・育成すべき人材像が明確であり、見学会等を通じて学生や保護者に浸透している。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・より高い出席率と定着率を目指し、学生一人ひとりの学習モチベーションを維持するエンゲージメントプログラムの導入が必要。
  - ・自律を促すため、社会人としての規律と主体性を育むワークレディネス教育をさらに深化させる。
  - ・1年という限られた期間を最大限に活用し、即座に実務へ応用できる「考動力」を養うアクティブラーニングを拡充する。
  - ・多様な進路選択を支援するため、外部の専門機関や就労支援ネットワークとの連携による重層的なキャリアパスを構築する。
  - ・単なる検定取得に留まらない、本校独自の新たなカリキュラムを策定する。

(2) 学校運営 (運営委員)

評価項目	達成値
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	A
②事業計画に沿った運営方針が策定されているか	A
③学校として、また地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	A
④教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A
⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか●	B
⑥卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	A
⑦法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
⑧個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか●	A
⑨学校自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	A
⑩学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか●	A
⑪地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託を積極的に実施しているか	B

- ① できていること、維持すべきこと
- ・HPや校長通信を活用し、積極的な情報発信を継続している。
  - ・学園の確固たるガバナンスのもと、目的意識を共有した組織運営を徹底している。
  - ・学校自己評価を実施し、課題の抽出と問題の改善に努めている。
  - ・少人数制の利点を活かし、学生のニーズの変化に即応できる柔軟かつ機動的なクラスマ

ネジメントを実現している。

- ・外部講師を招いた公開講座等を通じ、常に実社会の動向を運営に取り入れる体制を維持している。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・地域社会とのシナジーを創出するため、本校の教育リソースを活用した新たな地域貢献プロジェクトや公開講座を戦略的に展開する。
- ・本校の独自の魅力をより広範に届けるため、デジタルマーケティングを強化し、潜在的な入学希望者層への認知度を拡大させる。
- ・高等課程との連携を深めつつ、専門課程としての独自性と将来性を追求するための組織内イノベーションを推進する。
- ・専修学校設置基準を上回る質の高い教育環境を維持するため、内部統制とコンプライアンス体制を常にアップデートする。
- ・トップマネジメントによる中長期的なビジョンを明文化し、組織全体が一体となって目標達成に邁進する体制を強化する。

(3) . 教育活動 (教務)

評価項目	達成値
①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A
②教育理念、育成人材像や企業のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	A
③カリキュラムは体系的に編成されているか	A
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A
⑤実践的な職業教育(インターンシップなど)が体系的に位置づけられているか	A
⑥授業評価の実施・評価体制はあるか	B
⑦成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	A
⑧資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
⑨資格取得率の向上が図られているか	A
⑩専門的、先端的な知識・技能を持ち且つ学生に合った教員・講師の確保ができていないか。	B
⑪教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	B
⑫施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A

① できていること、維持すべきこと

- ・MO S等の検定・資格試験において、高い合格率を維持している。
- ・学生一人ひとりにノート PC を貸与し、デジタルネイティブ世代に適した学習基盤を整備している。
- ・学生の理解度やレベルに合わせた柔軟な授業展開ができている。
- ・外部講師の活用や職場体験など、実践的な職業教育を体系的に取り入れている。
- ・教育理念に基づいた教育課程が編成され、適切に実施されている。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・急速な技術革新と社会ニーズの変化に即応するため、最新のトレンドを反映した先進的な職業教育科目を順次導入する。
- ・専門課程ならではの高度な専門性をさらに追求し、学生の付加価値を高めるための独自の教育メソッドを開発する。
- ・教員のさらなる指導力向上のため、最先端の専門知識や教育手法を習得するFD（教員研修）プログラムを拡充する。
- ・キャンパスインフラを継続的に刷新し、特に ICT 環境 (Wi-Fi 等) のさらなる高速化・安定化を推進する。
- ・学修成果の可視化をさらに進めるため、成績評価基準の精緻化と学生による多角的な授業評価システムを強化する。

(4) . 学生指導等 (生徒指導)

評価項目	達成値
①基本的な生活習慣の確立のために取組が行われているか	A
②学生・保護者が相談しやすい体制は組まれているか	A
③退学率の低減が図られているか	A
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	B
⑤学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	B

- ① できていること、維持すべきこと
- ・担任制を軸とした伴走型支援により、学生と保護者が常に安心感を持てる相談体制を構築している。
  - ・SNS 等を活用したタイムリーなコミュニケーションにより、学生や家庭との緊密な連携と迅速な課題解決を実現している。
  - ・学生一人ひとりの特性を深く理解し、心理的安全性を提供することで、安定した学修継続をサポートしている。
  - ・健康診断の実施や熱中症対策等の日常的な声かけができています。
  - ・社会人としての基盤となる生活習慣の確立に向け、個々の状況に合わせた粘り強いコーチングを実践している。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・学生の社会参画意識を高めるため、本校の教育目標に合致した意義のあるボランティア活動への参加機会を体系化する。
  - ・ウェルビーイングの向上を目指し、専門的な相談窓口や保健機能のさらなる充実を図り、学生サポートの質を向上させる。
  - ・基本的な生活習慣の改善を加速させるため、保護者とのさらなる連携強化を図るとともに、学生の自律を促す新しいインセンティブ設計を導入する。
  - ・「寄り添い」を学生の「自立」へと昇華させるため、自己解決能力を養うためのライフスキル教育プログラムを強化する。
  - ・学生の主体的な活動を促進する新たなキャンパスプロジェクトを導入し、活気ある学園生活を創出する。

(5) . 進路指導 (進路指導)

評価項目	達成値
①個々に見合った進路指導ができているか	A
②就職率の向上が図られているか	A
③保護者と適切に連携しているか	A
④職場体験ができる教育体制を整備しているか	A
⑤学生に寄り添った進路指導ができているか	A
⑥卒業生への支援体制はあるか	B

- ① できていること、維持すべきこと
- ・担任と進路指導部が連携し、個々の適性を精密に分析し、一人ひとりの希望に合致したキャリア形成を支援する高度なパーソナル指導を実践している。
  - ・企業とのネットワークを活かした実務的な講座や職場体験を豊富に提供し、就業意識の早期醸成を実現している。
  - ・書類選考から面接対策まで、個別最適化された徹底的なフォローアップ体制により、学生の進路決定を強力にバックアップしている。
  - ・保護者との密接な情報共有を通じて、家庭と一体となった多層的なキャリア支援体制を確立している。
  - ・内部進学のみならず、さらなる高みを目指す進学者への支援も充実させ、卒業生の活躍の場を広げている。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・学生の自立を醸成するため、早期からの就業観育成プログラムや実社会を意識したマナー指導をさらに徹底する。
  - ・多様な背景を持つ学生全員が納得のいく進路を選択できるよう、個別の特性に応じた専門性の高いキャリア支援メソッドを開発する。

- ・組織的な進路支援体制を再構築し、チームによる多角的なサポートを実現するためのリソース配置を最適化する。
- ・卒業後も生涯にわたってキャリアをサポートできるよう、アルムナイ（卒業生）向けのフォローアップ体制の構築を検討する。
- ・雇用動向を先取りした新規求人開拓と、本校の確かな実績を社会へアピールするためのブランディング活動を強化する。

(6) . 環境整備等 (総務)

評価項目	達成値
①安全・安心な学習環境づくりができているか●	A
②防災に対する体制は整備されているか●	A
③式典、表彰、備品管理・発注は適正に行われているか●	A

- ① できていること、維持すべきこと  
▶高等課程参照
- ② 問題点や課題と今後の改善方策  
▶高等課程参照

(7) . 学生の受入れ募集 (渉外)

評価項目	達成値
①学生募集活動は、適正に行われているか	A
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	A
③学納金は妥当なものとなっているか	A

- ① できていること、維持すべきこと
- ・高等課程からの強固な連携ルートを基盤とし、信頼関係に基づいた確実な内部進学モデルを確立している。
  - ・見学会では、本校の魅力を一人ひとりに深く理解してもらうホスピタリティの高い募集活動を行っている。
  - ・教育の質を維持しながらも、経済的負担を抑えた授業料体系と、学園内進学ならではの特典制度により、高いコストパフォーマンスを実現している。
  - ・個々の適性に寄り添ったキャンパスライフの提供により、高い満足度を得ている。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・本校の教育内容をより広く社会に提供するため、姉妹校をはじめとする外部市場に対する認知度向上と、多様な入学生を受け入れるための募集戦略を強化する。
  - ・募集活動の更なる高度化に向け、教職員全体で最新の教育成果を共有し、組織一丸となった魅力発信体制を構築する。
  - ・早い段階からの志願者確保に向け、パンフレット配布の早期化や入試対策(面接講座等)講座などの新たな受験者支援サービスを導入する。
  - ・経済状況の変化に柔軟に対応しつつ、教育の質を最大化するための最適な学費・奨学金制度を常に追求する。
  - ・多様な学生一人ひとりが最大限に成長できる環境を維持するための、最適な学生構成バランスの検討を進める。

(8) . 財務 (事務室)

評価項目	達成値
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか●	A
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
③財務について会計監査が適正に行われているか●	A
④財務情報公開の体制整備はできているか●	A
⑤学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	A

- ① できていること、維持すべきこと
- ・「学生第一」の視点に基づき、高品質な教育をリーズナブルな学費で提供する、安定した財務基盤と収支構造を維持している。
  - ・厳格な予算管理と、各部門からのヒアリングに基づく透明性の高い予算編成・執行を徹底している。
  - ・奨学金制度等の案内を適切に行い、すべての学生が経済的理由で学びを断念することのないよう、多角的な支援を行っている。
  - ・財務情報の公開と丁寧な事務対応により、ステークホルダーからの信頼を確保している。
  - ・中長期的な視点に基づいた計画的な資産運用と管理を行い、将来にわたる持続可能な運営体制を確立している。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・持続的な成長を確かなものにするため、安定的な入学者確保に向けた募集戦略を構築する。
  - ・学習効果を最大化させるための戦略的投資として、ICT インフラの高度化や学習環境の充実化に向けた予算配分を最適化する。
  - ・より多くの向学心ある学生を支援するため、本校独自の特待生制度や学費軽減プログラムの導入を前向きに検討する。
  - ・事務部門の業務効率化と専門性向上を図るとともに、最新の公的支援制度等に関する情報を組織全体で共有する体制を強化する。
  - ・教育投資と運営コストのバランスを精緻に分析し、常に最高のコストパフォーマンスを發揮できる適正な学費を追求する。